

# 平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年11月2日記入

基本目標	ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	22310
政策名(章)	第2章 水やみどりの保全と創造に努めます	評価担当部	環境保全部
基本施策名(節名)	第3節 みどりの保全と創造	評価担当課	みどり対策課
施策名	みどりの保全と拠点づくりの推進	課長名	隅河内 司

## 1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

良好な緑地や樹林地について、緑地保全地区等の指定の拡大など計画的な確保を図るとともに、市民のうるおいの場となる木もれびの森をみどりの拠点として、市民との協働により地域の特性を活かした適正な管理、活用を進めていく。  
平成14年1月に「下九沢内出緑地保全地区」を指定するなど、これまでに、全体で180.9haの緑地保全地区等の指定を行った。また、みどりの拠点となる木もれびの森について、平成14年度に「木もれびの森保全・活用計画」を策定し、本計画に基づくボランティアとの協働による維持管理活動などに取り組んでいる。

## 2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		996,051	
人件費		33,810	
市民一人あたりの事業費	157	1,544	
合計	96,434	1,029,861	

\*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

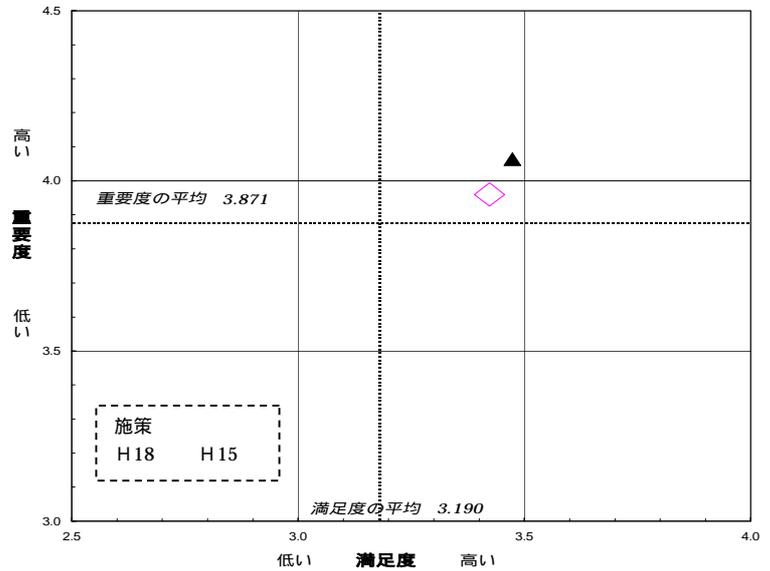
## 3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	緑地保全地区等指定率(%)	地権者合意面積 ÷ 指定予定地面積 × 100(%)		H17
指標2	緑地保全基金現金残高率(%)	現金残高 ÷ 基金現在高 × 100(%) (H17末基金現在高2,000,691,337円うち現金246,977,072円)	2.4億円 12.3%	H17
指標3	木もれびの森散策路整備率(%)	整備済延長 ÷ 計画整備延長 × 100(%)		H18
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	0.0 / 0.0	19	8.5ha	21	8.5ha	みどりの基本計画の目標(H27年:約200ha、現在180.9ha) 今後の指定予定目標面積
達成率	%					
指標2	5 / 2.4	19	5億円	21	5億円	基金運用額20億円の25%を現金残高に目標設定
達成率	48%					
指標3		19	900m	20	1,500m	木もれびの森散策路整備計画延長に対する整備率 整備計画延長:1,500m
達成率						
指標4						
達成率						
指標5						
達成率						

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.423で51施策の中で4番目。  
 重要度は3.960で22番目である。  
 改善要望度は - 0.1015で30番目である。  
 年齢別にみると、満足度は60歳代以上で高く、20、40歳代で低くなっている。  
 重要度は40歳代がもっとも低く、他の年代は大きな差はみられない。  
 前回調査と比較すると、満足度、重要度とも施策の順位に大きな違いはみられない。  
 満足度の順位では、20歳代で前回調査より大幅に下がっている。  
 重要度の順位では、70歳以上で前回調査より大幅に下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4 2 ①	緑地保全地区等の指定面積は約180.9ha、指定率90.5%となっており、概ね緑地の担保性が図られている。また、緑地保全基金の運用を効率的に図り、緑地保全用地の取得を進めている。
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4 ② 1	「木もれびの森」や「東林ふれあいの森」においては、それぞれの保全活用計画に基づいた維持管理を市民との協働によって進めることにより、地域の活動拠点となっていく効果が期待できる。また、平成18年度より森づくりパートナーシップ制度を創設し、下草刈り・間伐等の樹林管理や自然観察など緑地の保全・活用に係る活動を希望する市民ボランティア団体に対する位置付けを明確にするとともに必要な支援を図っていく。
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	④ 2 1	市民満足度調査による満足度は51施策中4番目、重要度は22番目であり、どちらの結果も平均値より高くなっている。また、市民ボランティアとの協働による緑地の維持管理活動が積極的に図られてきている。
合計		7	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)
			1次評価 B

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	緑地の維持管理については、パートナーシップ制度等により市民との協働により現在行われているが、今後維持管理すべき緑地面積の増加や、適切な管理を考えると維持管理に係る人材の不足が課題となる。
解決策	ボランティア養成講座等の開催により、緑地や里山の保全活動に関心のある人を育てていく。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

成果を表す指標の設定が難しい施策であるが、今後、施策目的に適合した指標の設定を検討する必要がある。	2次評価 B
---	-----------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向



